

鳥羽市全員協議会会議録

令和2年5月15日

○出席議員（14名）

1番	南川則之	2番	濱口正久
3番	瀬崎伸一	4番	片岡直博
5番	奥村敦	6番	河村孝
7番	山本哲也	8番	中世古泉
9番	木下順一	10番	戸上健
11番	浜口一利	12番	坂倉広子
13番	坂倉紀男	14番	世古安秀

○欠席議員（なし）

○出席説明者

- ・中村市長
- ・濱口企画財政課長、高浪副参事、田畑補佐、横田補佐、中村係長、永野副室長

○職務のために出席した事務局職員

事務局長 清水敏也  
書記 中村真緒

次長兼  
議事総務係長 木田 崇

(午後 2時59分 開会)

○木下順一議長 ただいまから全員協議会を開催いたします。

お疲れのところすみませんが、どうぞよろしく願いをいたします。

本日も協議いただく案件は、お手元に配付してあります事項書のとおりでございます。

この全員協議会は、インターネット配信を行いますのでご了承願います。

それでは、執行部報告事項1、新型コロナウイルス感染症対応地方創生特別臨時交付金実施計画の内容についてであります。

昨日、執行部のほうから各課の計画内容が取りまとめられましたので、全員協議会で議員の皆さんに説明をさせていただきたいと要請がありましたので、急遽、会議の初めに説明をしていただくことにいたしましたので、よろしく願いをいたします。

それでは執行部の説明を求めます。

市長。

○中村市長 皆さん、臨時議会に引き続きありがとうございます。

先ほどは3号補正のほうもご可決をいただきまして、本当にありがとうございます。

私も委員会のほうは全て放送のほうで聞いておりましたので、皆様方から本当にたくさんの意見をいただいたことも承知しております。そして、その中で幾つかあった中で、とば学生応援プロジェクトのほうで、県外だけの学生ではなく、県内にいる、つまり市外の学生についても応援をしてはいかかかというふうなお話をいただきましたので、市外の学生も含んだ応援ができるように検討させますので、ご理解のほどよろしく願いしたいというふうに思います。

それと、昼間営業している飲食の件もいろいろご意見があったかと思いますが、これもこの後の概要説明の中にも出てまいりますけれども、私どももその前からLet's Buy!とばで応援していた、それは予算は伴いませんけれども、そういったことも含めて応援しておりますし、共通券的なものも検討はしておりますので、そちらのほうもこの後の説明で皆さんのまたご意見もいただきながら検討に加えていきたいというふうに思っております。

後、説明のほうは担当のほうにさせますので、よろしく願いいたします。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 企画財政課、高浪です。よろしく願いいたします。

それでは、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金鳥羽市実施計画の概要をご説明いたします。

資料をご覧ください。

一つ訂正をお願いいたします。

資料の中で赤い帯があります。右側に予算化と書いたところがございますが、補正①3.27、3月27日と書いてありますが、3月31日、3.31の間違いでございますので、そこだけご訂正いただければと思います。

それでは、ご説明いたします。

臨時交付金実施計画でございますが、先行申請が5月20日までではありますが、三重県への提出締切りが5月15日、本日でございますので、全員協議会、この後に三重県のほうへの提出を行います。

ここに掲載しました事業費につきましては、臨時交付金の第1次配分限度額、それから、当初予算の中で実施が難しい事業の予算組替え、基金の取崩しと充当などによって財源確保を行う予定でございます。

また、これらの事業については、感染症の拡大状況によりフェーズ、段階が変化していきます。そのときそのときで必要な事業内容やその規模、そしてその事業の必要性の有無も変わってまいりますので、フェーズを見極めつつこの計画の中から実施事業を選定してまいります。

また、この実施計画の中には、既に令和2年度第1号補正、第2号補正事業も入れてございます。それら先行して実施します事業の執行見通しをつけながら財源を有効に活用し、順次予算化を検討していくものでございます。

ですので、ここに掲げました事業の全ての実施を担保するものではございませんし、それぞれの事業費の算定をして記載しておりますけれども、フェーズの変化によりまして、その事業費の変更、増額、減額もございますので、ご了解いただきたいと思います。

それでは、ナンバー1からナンバー15まで順番にご説明をさせていただきます。

まず、この一覧の見方ですが、一番左側が区分でございます。フェーズに応じて区分をさせていただきます。感染防止、暮らしの維持、事業継続、経済回復、リスク対策でございます。その横がナンバー、その横が事業名、次に事業概要、事業費、次が予算化としております。

臨時交付金の実施計画につきましては、令和2年4月1日以降にスタートさせた事業であれば遡って交付対象となりますので、令和2年の第1号補正、第2号補正においても実施計画に含めてまいります。そして、今回が第3号補正でございますので、その事業がどの補正に入るのか丸印をつけております。

それでは、ナンバー1からご説明をいたします。

ナンバー1は、区分、感染防止でございます。1、公共的空間安全・安心確保事業、これは、公共施設に配置するマスクや検温用体温計の購入で200万円で、5月1日の第2号補正で事業を進めているものでございます。

ナンバー2から5は、区分、暮らしの維持でございます。2、とば学生応援プロジェクト、今回の補正予算で上げさせていただいた事業です。

3、鳥羽市「子育て応援BOX」の配布、これも今回の補正で上げさせていただいた事業です。

4、移動販売による地域生活の支援、外出を自粛している高齢者等に対する買い物支援とともに、高齢者の見守り機能を持たせる事業でございます。事業費想定235万2,000円で、今後の検討になります。

5、生活に困難を抱えている児童・生徒の支援事業、学校が休校となっておりますけれども、休校中の食事、食費などが増加していることが考えられますので、この中で生活に困難を感じている児童・生徒（就学援助対象者）の生活支援を行う事業でございます。事業費想定で230万円、これも今後の検討事業でございます。

ナンバー6から10は区分、事業継続でございます。

6、鳥羽市宿泊事業者緊急対策事業、こちらは、市民を中心とした宿泊キャンペーンで、第1号補正により実施をし、現在は中断をしている事業でございます。

7、来県延期協力金、今回の補正予算で上げさせていただいた事業です。

8、事業継続・雇用確保に向けた支援窓口の開設、これも今回の補正予算で上げさせていただいた事業です。

9、新型コロナウイルス感染症拡大阻止協力金、こちらは、三重県と市町が協調し、営業自粛に協力いただいた事業者への協力金の半分以上を鳥羽市が負担するものでございます。申請が5月22日までとなっております。鳥羽市負担分がまだ判明しておりませんので、考えられる最大の1億1,000万円を上げております。また金額が確定をいたしましたら、補正予算で計上させていただきたいと思っております。

10、漁業持続化応援事業、漁業者に対する事業継続の下支えとしていただくための応援支援金として、想定事業費が1,115万円で、今後の検討でございます。

ナンバー11から14は区分、経済回復でございます。

11、未来を担う子どもたち応援事業、今回の補正予算で上げさせていただいた事業です。

12、飲食店等プレミアム付き商品券事業、感染症で売上げが減少している飲食店や宿泊施設などで使えるプレミアム付き商品券を発行し、消費拡大、経済循環の拡大につなげるものでございます。想定事業費は1,200万円でございます。

13、都市部からのテレワークプランの造成・情報発信、宿泊施設におけるテレワークプランを造成し、まとめて情報発信をする事業です。想定事業費は25万円です。

14、Go Toキャンペーン期の市独自上乘せ事業、OTAを活用し、プロモーションとクーポン発行による誘客を行う事業です。想定事業費は2,000万円です。

ナンバー15は、区分、リスク対策でございます。15、オンライン事業などのための児童・生徒端末整備支援事業、1人1台端末の実現と一括管理のためのソフトライセンスの購入でございます。想定事業費は1,732万9,000円でございます。

合計しまして、2億3,098万1,000円で実施計画を提出したいと思っております。今後の感染症のフェーズを十分に加味した上で、事業の実施の必要性、事業内容、事業規模などを検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○木下順一議長 説明は終わりました。この件について、ご質疑はございませんか。

瀬崎議員。

○瀬崎伸一議員 3点お伺いをさせていただきます。

まずは、5番になるのかな、生活に困難を抱える児童・生徒の支援事業というところでお伺いをいたします。

今、現在、補正等々の予算化がされてない、今後の検討事項になるということだと思っておりますけれども、よかったことなのかとは思っておりますけれども、緊急事態措置の解除ということで、鳥羽市においても学校は休校措置が、恐らくは、もうここ近日中に解除の方向で動いておると思っております。

そうなってくると、ちょっとこの事業化概要の書き方が、ちょっと若干反故が出てこないのかなとは思っておりますけれども、これは、採択されなくてはいけないとかということになってくるのであれば、ちょっとこちら辺、もう少し書き方というか、考えていただいたほうがいいんじゃないかと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 分かりにくいという、そういう意味でしょうか。書き方。

○木下順一議長 瀬崎議員。

○瀬崎伸一議員 ごめんなさい。もう休校していなければ、もしかしたらもうこの人たちは困らないのかなんという取り方をされてしまうと採択されないというような方向になるのがいかんかなと思うんですけども。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 分かりました。

今まで休校しておりまして、その中で生活費等が少しかかってきたのかなというご家庭にということですので、そのあたりは分かりやすいように書き方は考えて、早急に修正して提出をしたいというふうに思います。

○木下順一議長 よろしくをお願いします。

瀬崎議員。

○瀬崎伸一議員 続けてよろしいですか。

○木下順一議長 はい、どうぞ。

○瀬崎伸一議員 すみません。続いては、10番になります。漁業持続化応援事業で、対象者として書いていただいているのが鳥羽磯部漁協の正組合員及び海女さんということで書いていただいているんですけども、たしか組合員さんには準組合員というのもあるのかなと思うんですけども、その辺は、やっぱりそこら辺で線引きをせないかんものなのか、私の感覚としては、組合員さんであれば、正、準ともにフォローしていついかけたほうがいいんじゃないのかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 これにつきましても、今後の検討でございますので、中身については、これからもっともっと詳しくなって、実施するときには、もう少し詳しくなっていきますので、そのときの検討でさせていただきたいと思います。

○木下順一議長 瀬崎議員。

○瀬崎伸一議員 では、最後いかせていただきます。

すみません。14番、Go Toキャンペーン期の市独自上乗せ事業というところでお伺いをいたします。

書いていただいている概要では、恐らくこの楽天さん、じゃらんさんというようなもので集客を図るのは、恐らく個人客かなと思うんですけども、やはり大きく市内への経済波及効果を催したいとなれば、いわゆる団体客という方向になってくるんじゃないのかなというので、クーポン券を発行されるということであれば、一案としては、バスで来られるのであれば、バス事業者に対しても市から独自に補助金を出すとか、エージェントに対しても直接ツアーを組んでいただいたら幾ら出すとかという方向をぜひ検討していただくべきやと思うんですけども、いかがでしょうか。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 今言われましたバス会社への補助金につきましては、旅館組合のほうからもお話を伺っておりますので、実際に組み立てる段になりましたら、そのあたりも加味していただけるのではないかとこのように思います。

○瀬崎伸一議員 ありがとうございます。

○木下順一議長 よろしいですか。

○瀬崎伸一議員 はい。

○木下順一議長 他にございませんか。

正久議員。

○濱口正久議員 すみません。10番の漁業持続化応援事業なんですけれども、人数的に計算すると1人1万円ぐらいを想定されているのでしょうか。これは。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 そうです。

○木下順一議長 正久議員。

○濱口正久議員 1万円が多いか少ないかというのは、今やるかやらんかのところで議論はあるかと思うんですけれども、思い切った、やっぱりご苦労されているところには、きちんと明確にこの支援の中身を必要なところにきちんと渡って、必要でないところをご遠慮いただくようなことも含めて、もうちょっと検討をしていた方がいいのではないかなと、今後思います。

続けてよろしいですか。

○木下順一議長 はい。関連があれば、よろしいですか。

(「関連なんですけれども、そのあとで」の声あり)

○木下順一議長 正久議員。

○濱口正久議員 すみません。12番の飲食店とプレミアム付き商品券事業を検討されていると、まだ今後の検討ということなんですけれども、これは件数と金額とか、どういうふうなものを想定されていますでしょうか。どれぐらいの規模を。金額は出ているので、1,200万円というふうな。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 金額、プレミアムが幾らで、幾らで販売かということに関しては、いろんな組合せができるかと思います。例えば3,000円のプレミアムで1万3,000円の商品券を1万円で購入していただくとか、あと1,000円のプレミアムで5,000円の商品券を4,000円で購入していただくとか、組合せでセット数が変わってきますが、その中でどれが一番販売力があるか、経済効果があるかというのを計算して、これから実施するときに決めていく形でやりたいと思っております。

○木下順一議長 市長。

○中村市長 補足させていただきますと、例えば伊勢方式でいくと、うちは伊勢市の人口の7分の1ですので、伊勢が20万冊やったところ、鳥羽の人口でいくと2万9,000冊ぐらいになります。それでいくと、2,900万円ぐらいかかるので、それでも今追いつかないわけなんですけれども、この商品券の組合せといたしますか、発行の仕方、どの業種まで広げるとか、そして、なおかつ発行の仕方がシンプルのようにやらないと手数料で随分食っていくという、今までの苦い経験もあるものですから、いろんなことを参考にしながら鳥羽らしいプレミアム券を出せばいいなというふうに思っております。

以上です。

○木下順一議長 正久議員。

○濱口正久議員 いろんな方式が今全国各地でやられています。私たちの中で、話し合いの中でも出たんですけども、桑名では、また桑名方式と言われる現金がすぐに手元に入る方式もございます。これは、5,000円の商品券、還元率が40%で2,000円もついているすごいものです。それが大体、その家で、例えば仮に50冊をそのお店しか使えないという裏書きのあるものをそこのお店で直接購入すると、大体25万円程度になるかと思います。それにプレミアムが後で交換すると、大体鳥羽市で計算すると500件の飲食と宿泊を含めて多分、以上になるかと思うんですけども、いろんなところで使えるものにするると25万冊ですね。これが実際5,000万円ぐらい必要になってきます。財源としては、そういうふうな還元率でいきますと、40%の。

1件の家に25万円と市民の協力で購入していただいたものと、市からの10万円とというような形で、すぐに入るお金が25万円という循環の仕方もあって、これは、ぜひとも早い段階で各地導入しているのは、給付金、1件1人当たり10万円の給付金が入るタイミングで使っていただこうと、協力できる人たちがそのお店で使っていただいて、お金に余力のある人が経済の、市内の循環の手助けをするというような仕組みもございますので、ぜひともそういうことも考えて、この大きな被害を受けている鳥羽市の中の全ての業者さんに対して循環がスムーズに、すぐにでもスタートを切ろうと思うと、市内の中でそういうふうな協力をさせていただくのが一番かなと思いますので、その辺のところ、市長もどうでしょうか、検討していただければと思いますけれども。

○木下順一議長 市長。

○中村市長 濱口議員の言われた数字と私合っているかどうか分からないんですけども、こちらで調べたのでいくと、桑名は5万5,000冊で1億5,400万円の予算を組んでいますので、それからいくと、鳥羽は、桑名の8分の1の人口なので、7,000冊の2,000万円ということで、伊勢よりは、この数字は組みやすい方式なのかというふうに思いましたけれども、これは定かではないので、ただ、お客さんに直接お金が渡るというところに利点があるというふうに議員おっしゃっていますので、そういったやり方も工夫しながら検討させていただきます。

○木下順一議長 よろしいですか。

○濱口正久議員 はい。

○木下順一議長 河村議員。

○河村 孝議員 まず経済回復のところ、12番と14番、ここがアフターコロナといいますか、越境も含めて解除になった場合の、来ていただいて、経済を立て直すというところのメインになってくると思うんですけども、14番、プロモーション及びクーポン発行というのは、クーポンというのは、震災復興のときに出たようなクーポン、あんなイメージのかな。

要するに、楽天とじゃらんを通してクーポンを買っていただくと半分負担できますよみたいな、そういう考え方で、もう少しちょっと詳しく説明を。

○木下順一議長 高浪副参事。

○高浪副参事 まさにそんなイメージでよろしいかと思います。

G o T oキャンペーン自体は、国が実施するものでございまして、今、河村議員が言われたことをやって

いただく予定になっております。

それにほかの地域に打ち勝つために独自で上乗せをするというようなイメージでございますので、クーポンがつけ足しになると、そういうふうなイメージでよろしいかと思えます。

○木下順一議長 河村議員。

○河村 孝議員 ここが一番の肝に、うちにとってはなってくると思うんです。ここでお客さんを、入込客数を増やして、経済を回しにかかるという一番柱の政策になると思うので、今後もっともっとボリュームを上げるようなところもぜひ検討していただきたいなと思うんですけれども、私のアイデアなんですけれども、聞いてくださいね。

漁協の漁業持続化応援事業を組んでもらっています。先ほど瀬崎議員から準組合員もという話があったんです。ここに視点を向けてもらって、たとえ1万円であろうと応援しにいかうという姿勢を見せてくれた。物すごく僕は評価したいと思います。

準組合員と正組合員の違いなんですけれども、一般的に水協法で縛られておる、いわゆる90日ルールですね。縛られている人たちが正組合員なんです。準組合員というのは、釣り船であったりだとか、90日ルールに乗らない人たち、あとは株券を普通に持っている人たちが準組合員に属すると思うので、ほぼほぼ議会の人たちが認識している漁業者というのは、正組合員で合っていると思うので、これまた準組合員まで広げてしまうと、これが5,000円になっていたりするので、そこは正組合員対象でいいと思うんです。

そのこの10番の事業と12番の事業と14番の事業を絡めることが僕は大事だと思っておって、たった1万円だけですかという話もあったと思うんですけれども、まさに地元で捕れた、海女さんが捕ったアワビであり、漁師さんが捕った魚をどうやって地元で消費するかという方向に向けていかないかと思えます。

その辺の作戦として、飲食店や宿泊施設が地元の食材を積極的に使いやすいような事業の内容にしていかないかと思うんです。だから、このクーポンを発行するときに、案内として、宿泊業者さんに地元の食材を積極的に入れてもらったところもうちのクーポンの額を上げますよとか、プレミアム商品券のところもそうなんですけれども、地元の食材を使ってもらったところには、もう少しプレミア感を出しますよみたいな、そういうふうにして漁業者の水揚げしたものが地元にしっかり吸い上げられるという形を事業で示していくことが僕は大事なのではないのかなというふう思うんですけれども、市長、いかがですか。

○木下順一議長 市長。

○中村市長 まさに、私もそう思っているところでして、前回の説明でもさせてもらいましたけれども、まず、お金いただいて助かるわだけで済むよりは、特に域内循環を考えていくと、早く現金が手元に入ること、いろんな団体、例えば漁協さんとかが一緒に関わっていくことが大事だと思います。それに、できれば、応援や支援のメッセージが伝わり、話題性もあって、そして仕組みがシンプルになるようにやっていきたいと思っております。ありがとうございます。いい質問を組合せていただいて。

○木下順一議長 河村議員。

○河村 孝議員 ぜひそんな方向で、地元の水揚げした荷が、もうよそへ出荷できやんと、地元だけでもういっぱいやというぐらいの悲鳴が上がるように、そのような事業体系を組んでいただきたいなというふうに思います。

それと、トータルでなんですけれども、聞きたいんですけれども、今回、臨時交付金の部分と今後の検討の額を合わせると2億3,000円のところの規模になってくると思います。

前回の市長の答弁の中に、基金の取崩しも含めてというところが答弁にあったかと思うんですけれども、臨時交付金を除いて、今後使われないであろう、中止になる予定も含めた金額が、財政課長の説明では3,200万円ほどあったと思うんです。それを取っ払うと約7,000万円から1億円の間ぐらいを土地開発基金から持ち出すのか、全然もうそこは違うところを考えているのか、基金はもう取り崩さないのか、その辺の、まだ正式なことは言えないでしょうけれども、市長の考え方を教えていただけませんか。

○木下順一議長 市長。

○中村市長 これも先日ここで説明させていただいてからまだ日がたっておりませんので、どのようなやり方になるかというのは決まっておりますけれども、基金は聖域ではないというふうに思っております。

ただ、財政調整基金とかは、へそくりとか貯金とは言いつつも、鳥羽市の額はへそくりにも満たないぐらいしかないということもあまして、使える貯金と、もう来年使わなければいけない貯金もあるものですから、その辺は今年の税収のほうとか、そういったものも勘案しながら、聖域ではないということはあるんですけども、慎重に考えたいというふうに思います。

以上です。

○木下順一議長 河村議員。

○河村 孝議員 企画財政課長にお聞きします。

土地開発基金、今、幾ら残っていますか。

○木下順一議長 企画財政課長。

○濱口企画財政課長 今、現在3億7,000万円ほどあると思います。

○木下順一議長 河村議員。

○河村 孝議員 聖域ではないと市長おっしゃったので、財調のところを触るよりも、まずそれをここで使い切るんやと、まず、財調触らない段階で、ぐらいのボリュームと意思を示してほしいなと思うんです。恐らく考えてもらっているボリュームが、まず7,000万円ぐらいの基金の取崩し、それは財調から出すのか、土地開発基金から持ってくるのか、テクニックの問題なんだろうけれども、土地開発基金だけでいえば、まだもう少し余裕がある、その中で来年のこともらみながらというところが悩ましいところではあるとは思いますが、ここは、もう緊急措置として思い切って、市長、踏み込んでほしいなというふうに思うんです。財調が目減りして行って、本当にもう使えない状態というのも重々承知しているんですけども、土地開発基金がそれだけあるなら、もう少しぎりぎりまで踏み込んでいただきたいなというふうに思うんですけども、市長、どうでしょうか。

○木下順一議長 市長。

○中村市長 急ぐことが、現実本当に大事なんですけれども、市民が喜ぶことも大事なんですけれども、将来的に市民のためになることも大事だということで、そのバランスのはざままで今から、うちは苦労はしますけれども、どうということ、ここでちょっと言い切れませんが、河村議員のおっしゃることも検討したいというふうに思います。

○木下順一議長 河村議員。

○河村 孝議員 最後にしますけれども、先ほど言うたように、3つの事業を組合せて、とにかくオール解除になったときに大挙して、お客さんに来ていただいて、鳥羽にお金を落としてもらおうということが一番鳥羽市の経済が回る方法だと思うので、そこへ積極的に来てもらえるような事業を一極集中して、ボリュームを増やしてほしいというふうに思います。

私からは以上です。

○木下順一議長 他にございませんか。

戸上議員。

○戸上 健議員 2点お伺いします。

鳥羽市がなげなしの財布だということは、僕はよう心得ております。それから、基金から思い切って投入してほしいということも言うてきました。

しかし、今は、僕は非常に感じるのは、市民全体、市全体に、みんなで助け合おうという機運が盛り上がっておるというふうに思うんです。それは、例えば討論でも言いましたけれども、養殖カキの青年グループ、あれは20万円ですか、全額フードバンクにと……

(「6万円ですね」の声あり)

○戸上 健議員 6万円……

(「天びん屋さんが20万円ですね」の声あり)

○戸上 健議員 そうですか。母子会中心にしたカレー、しかもせっかく名前出したんだけれども、そういったところがあります。

ですから、一つは、以前にも提案しましたけれども、善意の基金、募金の口を早く鳥羽市として設けて、そして、今これだけになっていますと、今日はこれだけですと、毎日ホームページで募金額というのを積み上げていってほしいというふうに思うんです。

何でこんなことを言うかと言いますと、鳥羽市内の財閥と言うと語弊があるけれども、お金持ちの方が、県が基金運動を始めたもので、県へ募金したと、本来なら、鳥羽これだけ困窮しておるんだから鳥羽にしてほしいわけです。

ですから、そういう基金の窓口を、募金の窓口を早く市長名でつくって、そして、防災無線で市長訴えられておりますけれども、あの中に入れていただきたいと、それに呼応という市民もたくさん、僕はいるというふうに思うんです。間もなく10万円入りますから、あの半分は募金しようという市民も少なくないというふうに思います。その窓口を市のほうでつくってやってほしいと思います。

それはもう結構です。そのつもりだというふうに前もおっしゃっていましたので、結構です。

それから、2点目ですけれども、クラウドファンディングの制度、仕組み、これをこの間伊勢市の商工労政課長に話を聞きましたら、これをこの14日の議会では取り入れて、1,185万円計上していますけれども、応募者というのは、支援したい店舗や事業者を選択して応募すると、返礼品として、店舗、事業者で使用できるプレミアム付き利用券、これはお店であれ、飲食店は25%、宿泊施設は50%、市のほうは、そのプレミアム分の経費とクラウドファンディングの手数料、振込手数料などを負担するそうなんです。

僕、思うんですけれども、例えば海博にしても、それから大庄屋かどやにしても、この間閉めた状態です。大庄屋はちょっと違いますけれども、海博でも全然入館料というのはありません。かといって固定費は払わなきゃいかんということで、赤字になっておるといふふうに思うんです。

こういったときに、海博のファンというのも全国に、僕はおるといふふうに思うんです。そういう方々にこのクラウドファンディングで呼びかけて、ぜひ応援してほしいと、1年間無料の利用券をお送りしますとか、何らかのメッセージを送ってすればどうだろうかというふうに思います。

店舗や飲食店や宿泊施設を固定してというのも、それはなじみの客の方もいらっしゃいます。自分の好きな行きつけの店がずっと休んでいたと、それに対して応援したいという方もいらっしゃるといふふうに思いますもので、一遍、ぜひこれは検討していただきたいというふうに思います。

ですから、皆さんが、僕は財政捻出で非常に苦勞しておるといふことは分かっていますもので、どういう形で市民の善意で市の財政といいますか、やる財力をつくり出すことができるかというところにも、ぜひ検討、知恵を傾けていただきたいというふうに思います。

以上です。

○木下順一議長 他にございませんか。

浜口一利議員。

○浜口一利議員 この区分の表の中で、区分ということでいろいろな分野に分けて事業をやっていくということなんですけれども、まず1番の感染防止というところで、体温計とマスクということが上げられていますけれども、やはりこれから、コロナ騒動の収束した後にはどのような新しい生活とか、経済回復をしていくのかというのがこれからの課題かと思うので、政府のほうも新しい生活様式とか言われているんですけれども、その中で感染防止というのが大きなウエイトを占めてくるといふふうに思います。

鳥羽市としては、やはり年間400万人以上の方が訪れていただいて、経済があるといふところなので、人が来てもらって、自分らが生活する中でも、やはりコロナはずっとまだ完全に収束といふか、もうコロナの菌がなくなっていくことはないので、一緒にいふところがいつも、今、テレビで言っているところなんですけれども、やはり、このあたり、もう少し事業を各ホテルとか、飲食店とか、学校とか、感染防止対策に係るいろいろな事業に対しての支援策かといふのも、やっぱりこらで上げてほしいなと思ふんですけれども、ここではもうマスクと体温計のみしかないわけなんですけれども、今、ここでこんなことをやれとちょっと思いつかないんですけれども、考えれば椅子を離してとか、いろいろやっているんですけれども、人が来て、感染するとまたこれまでの努力がもう終わってしまうもので、そのあたりもやはり力を入れたほうがいいのかと思ふんですけれども、そのあたりどうでしょうか。

○木下順一議長 市長。

○中村市長 その辺につきましては、県のほうで経営向上支援ということで10万円の補助金もあるものですから、そういったものを、それも事業、何とは決まっていなくて、それを知らない人に取りに行くような情報発信もしていきたいというふうに思っていますし、飲食のところに対して、今回、テイクアウトの容器なんかが必要になっている店もたくさんあるんですけれども、一旦そちらでも予算考えたんですけれども、その県の10万円で取れるんじゃないかということで外した経緯もあるものですから、そういったことをもっと積極的

に発信をさせていただきたいと思ひますし、議員言われるほかにも感染症対策として、こんな機材があつたらいいんじゃないかと、そういうものが、本当に新しい生活様式ということで、初めてのことなので、思ひもつかないような対策があるかもしれないので、そういったことにもアンテナを張りながら、あれば考えていきたいというふうに思ひます。

○木下順一議長 一利議員。

○浜口一利議員 今、まだ全面解除ではないわけなので、全面解除になつた場合、やはり鳥羽は人が来てもらつてというところで、やはり鳥羽はこんな対策をやつていますよ、来て安全ですよというのを発信しなければいけないかなと思ひていますので、よろしくお願ひいたします。

○木下順一議長 他にございませんか。

山本委員。

○山本哲也議員 すごく繰り返し、しつこく聞こえるかもしれませんが、飲食店さん、観光客の方々が日頃来ていただいておつたりするところをメインにしておるところとかいう部分に関しては、僕は、プレミアム商品券とかでカバーしますというのは、僕はできないと思ひんです。

というの、お客さんのほとんどが観光客の方というようなことになってくるかと思ひるので、たとえプレミアム商品券が発行、どのような形で発行されるかも分かりませんが、なかなかその効果が行き届く場所じゃないのかなというふうに思ひんです。

先ほどの委員会でも言ひましたけれども、協力金は、出しておるところと、この経済対策の支援というの、僕は別のもやと思ひていますので、そういったところにも、ちゃんとしっかり行き届くようにしていただきたいなというふうにも思ひますし、何とかしていただきたいなというのがあります。

本当に同じ施設内でもらえるところとか、もらえていないところが出てきておつたりですとか、そういうこともありますので、できたらそういう方に鳥羽市として、ふだん観光を支えていただいているところに対して、市長も冒頭、今日の上程のところでお話しいただいていましたので、そういった感謝ですとか、それに応えるために休業という形を皆さんとつていただいているかと思ひますので、そこに対する部分として、鳥羽市としても何らかの施策を打つてあげてほしいなというふうに思ひます。

それがこの中だと、なかなかちょっと僕はフォローし切れないんじゃないかなというふうには思ひますので、まだ漏れているところというのが、そういったところも散見できるかなというふうに思ひます。ですので、ぜひともどうにかしていただきたいなと、しつこいですけれども、そのように思ひております。

○木下順一議長 お願ひでよろしいですか。

○山本哲也議員 はい。

○木下順一議長 ほかに。

正久議員。

○濱口正久議員 すみません。今後、一利議員も言われたように感染防止対策と、それから、リスク対策というのがついて回ると思ひんです。しかも河村議員が言われたように、やはり県外からいろんな各所からお客さんに戻つてきてもらわない限りは、鳥羽の復活はないと思ひます。

それを見越した上で、それを呼び込むのであれば、そういう対策はしっかりと取らないと、呼んだ後に鳥羽

でたくさん出たといって風評被害に遭っては身も蓋もありませんので、そこら辺のところは、一緒に対策費はかかると思いますけれども、いろんな意味で、やっぱり公共交通機関を使われる方、あとは離島に渡られる定期船の方も含めて、今、対策はしっかりと、あと、これから災害等々も台風等で起こってくると思いますので、そういうふうな感染防止対策とリスク対策というのはしっかりと抱合せてやっていただきたいなと思います。

○木下順一議長 よろしいですか。

○濱口正久議員 よろしいです。

○木下順一議長 他にございませんか。

瀬崎議員。

○瀬崎伸一議員 最後の15番です。いわゆるGIGAスクールの構想の部分で、当初の予算、補正予算等々では上がっていたと思うので、恐らく今年度の末ぐらいには、一応は端末の配備までは進むというようなご答弁をいただいていたのかなと思うんですけども、やっぱり、今回、よくて休校措置は解除になったと思うんですけども、よくテレビ等々で言われているように、やっぱりちょっと気の緩みというのが、もしかするともう一回第2波、第3波を催す可能性がないとは言い切れないのであれば、やっぱりまた学校も休校措置を取らざるを得ないという事態がまた年内にやってくるかも分からない。

やっぱりそこは、念頭に置いていただいて、できるだけ早い整備ができるように進めていただきたいんですけども、その辺は難しいものですかね。

○木下順一議長 市長、答えられますか。難しいなら難しいでも。

市長。

○中村市長 1人1台パソコンということでよろしいんですかね。

実現する方向で検討しているところでございますので、もしと言うとあれですけども、さっき言われたようなこういう2次の感染、波が来るときとか、特にうちで言うと、離島航路で不通になったときの授業ができるようにとか、現実に生かせる、想定できる事態がもうたくさんありますので、もうそれを必ずやり切るといいますか、早急にできるような体制に持っていくということを条件に進めておりますので、よろしく願いいたします。

○木下順一議長 はい。

○瀬崎伸一議員 努力していただいているということで、よろしく願いいたします。

○木下順一議長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一議長 ありがとうございます。

最後にちょっと一つだけ私からも、今日の補正の第3号でも、委員の方からいろいろ意見があったと思います。さっき市長は、意見をいただいたので、それも次につなげていきたいというような答弁あったと思うんですけども、今後検討する地方創生臨時交付金も最後になってこようかと思うので、もうがちっと固めてしまう前に、ある程度できていることであれば、ちょっとご相談にも来ていただいてしないと、また今後の検討のところでもいろいろと指摘されても政策に反映できない部分もあろうかと思うので、その辺は我々もなかなか介入しにくいところですけども、ぜひ柔軟に対応いただければありがたいかなと思うんですけども、よろし

くお願いします。

質疑もないようですので、この件は終了いたします。

執行部の皆さんは、退席をお願いいたします。ありがとうございました。

それでは、引き続いてですけれども、議会の協議事項、議員報酬削減についてですけれども、このことについては、6月の期末手当を30%削減したいと思います。皆さんのご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○木下順一議長 異議なし。ありがとうございます。

それでは、議員報酬の削減については、6月の期末手当を30%削減することに決定いたしますので、よろしくお願いをいたします。

続きまして、②議会費における新型コロナウイルス感染症対策における対応支援についてであります。このことについて皆さんからもたくさんご意見をいただきました。鳥羽市議会としては、今回の補正で支援から漏れた事業者への支援施策に充ててほしいと要望していきたくと思いますが、ご意見いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○木下順一議長 異議なし。ありがとうございます。

それでは、議会費における新型コロナウイルス感染症対策における対応支援については、支援から漏れられた支援施策に充てていくようにいたしますので、よろしくお願いをいたします。

続いて、③災害時行動計画における議員としての対応の明記について、このことについて事務局から説明をさせます。

事務局長。

○清水事務局長 それでは、別添の鳥羽市議会災害時行動計画のペーパーをご覧ください。その最終ページ、5ページをご覧ください。

このページにつきましては、5月1日の情報共有会議でご説明し、議員の皆様にはご確認をいただいておりますけれども、正式に全員協議会の場でこの取扱いについてお認めいただきたく提案させていただきました。このたびの新型コロナウイルス感染症に対しまして、議員としての対応5点と議会としての対応9点を掲げさせていただきます。よろしくお願いをいたします。

説明は以上です。

○木下順一議長 ただいま事務局長から説明がありましたが、説明のとおり取扱うことにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○木下順一議長 ご異議ございませんので、そのように決定いたします。

以上で本日の協議事項は全部終了いたしました。

これをもって全員協議会を散会いたします。

皆さん、どうもありがとうございました。お疲れさまでございました。

(午後 3時50分 閉会)

議長はこの会議録をつくりここに署名する。

令和2年5月15日

鳥羽市議会議長 木 下 順 一